

# 平成22年度 熊谷市民意識調査

## 概要版

このパンフレットは、平成22年11月に行いました「熊谷市民意識調査」のあらましです。  
ご協力をいただきました方々に、心からお礼申し上げますとともに、この結果を、市政を進めていくにあたり、貴重な資料として活用させていただきます。

### 調査の概要

調査地域	熊谷市全域
調査対象	市内に居住する満20歳以上の男女、および平成22年度市政モニター 3,030人（一般：3,000人、市政モニター：30人）
抽出法	住民基本台帳に基づく無作為抽出（一般）
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査期間	平成22年11月1日（月）～11月15日（月）
有効回収数	2,011
有効回収率	66.4%

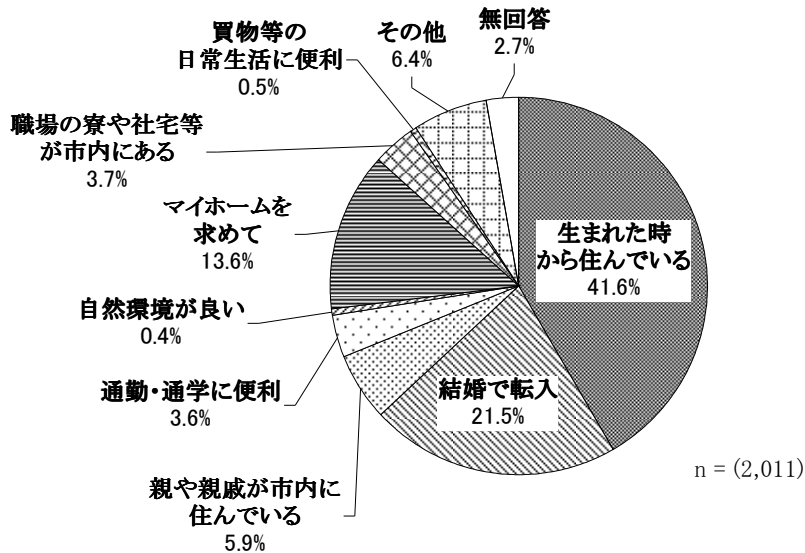
### 概要版を見る上での注意事項

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示しています。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示しています。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。

# 1

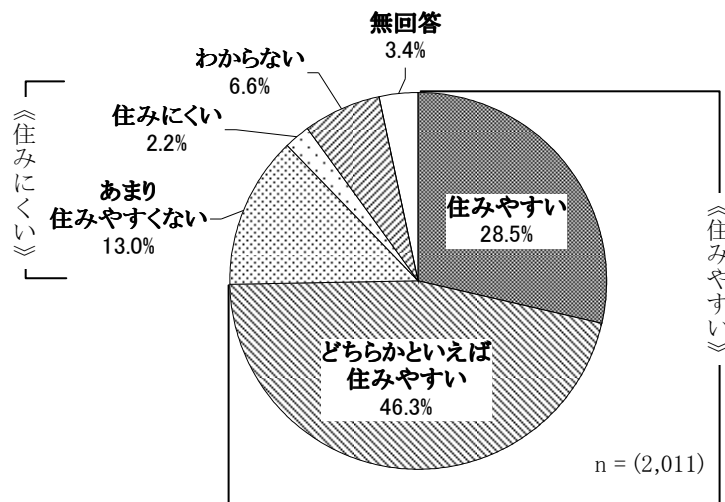
## 住みごこちや生活環境

熊谷市に住むようになった理由



熊谷市に住むようになった理由は、「生まれた時から住んでいる」が41.6%で最も多く、「結婚で転入」が21.5%、「マイホームを求めて」が13.6%となっています。

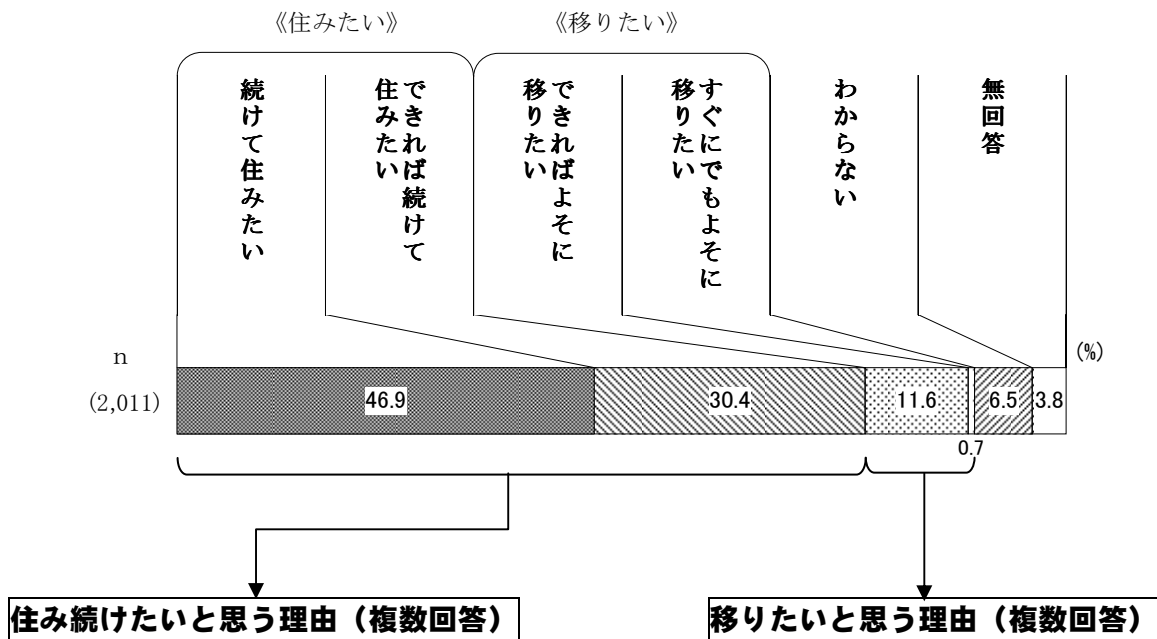
住みごこち



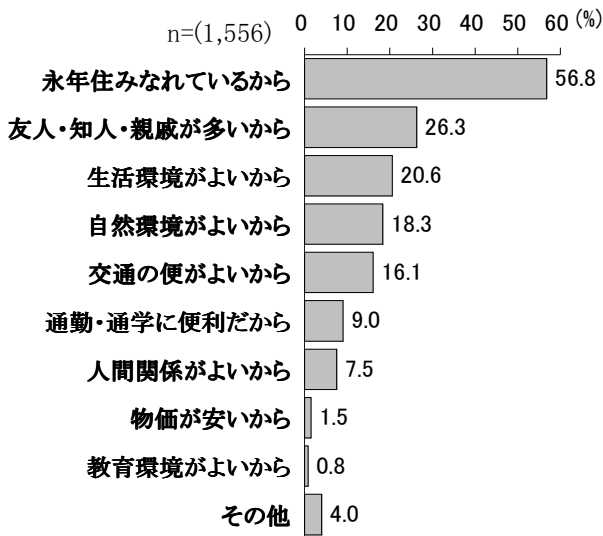
熊谷市の住みごこちは、《住みやすい》（「住みやすい」＋「どちらかといえば住みやすい」）が74.8%となっています。一方、《住みにくい》（「住みにくい」＋「あまり住みやすくない」）は15.2%となっています。



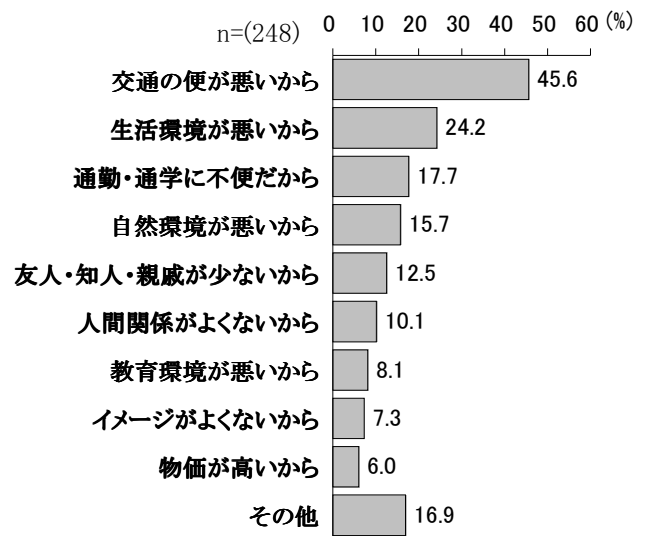
## 定住意向



### 住み続けたいと思う理由（複数回答）



### 移りたいと思う理由（複数回答）



熊谷市にこれからも《住みたい》（「続けて住みたい」＋「できれば続けて住みたい」）は77.3%となっています。一方、《移りたい》（「できればよそに移りたい」＋「すぐにでもよそに移りたい」）は12.3%となっています。

住み続けたいと思う理由は、「永年住みなれているから」が56.8%で最も多く、以下、「友人・知人・親戚が多いから」（26.3%）、「生活環境がよいから」（20.6%）が2割台で続いています。

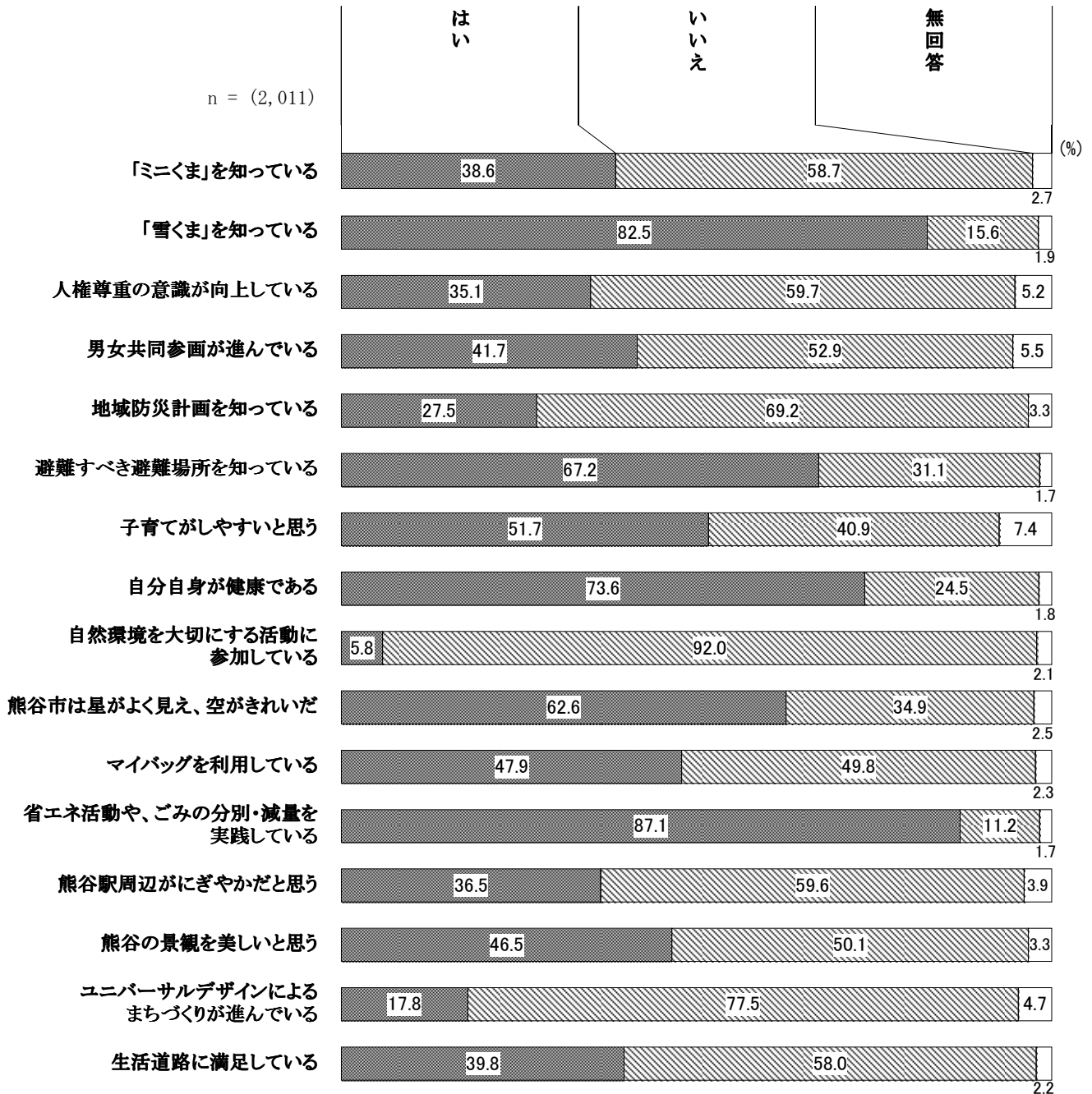
移りたいと思う理由は、「交通の便が悪いから」が45.6%で最も多く、「生活環境が悪いから」（24.2%）、「通勤・通学に不便だから」（17.7%）、「自然環境が悪いから」（15.7%）などが続いています。

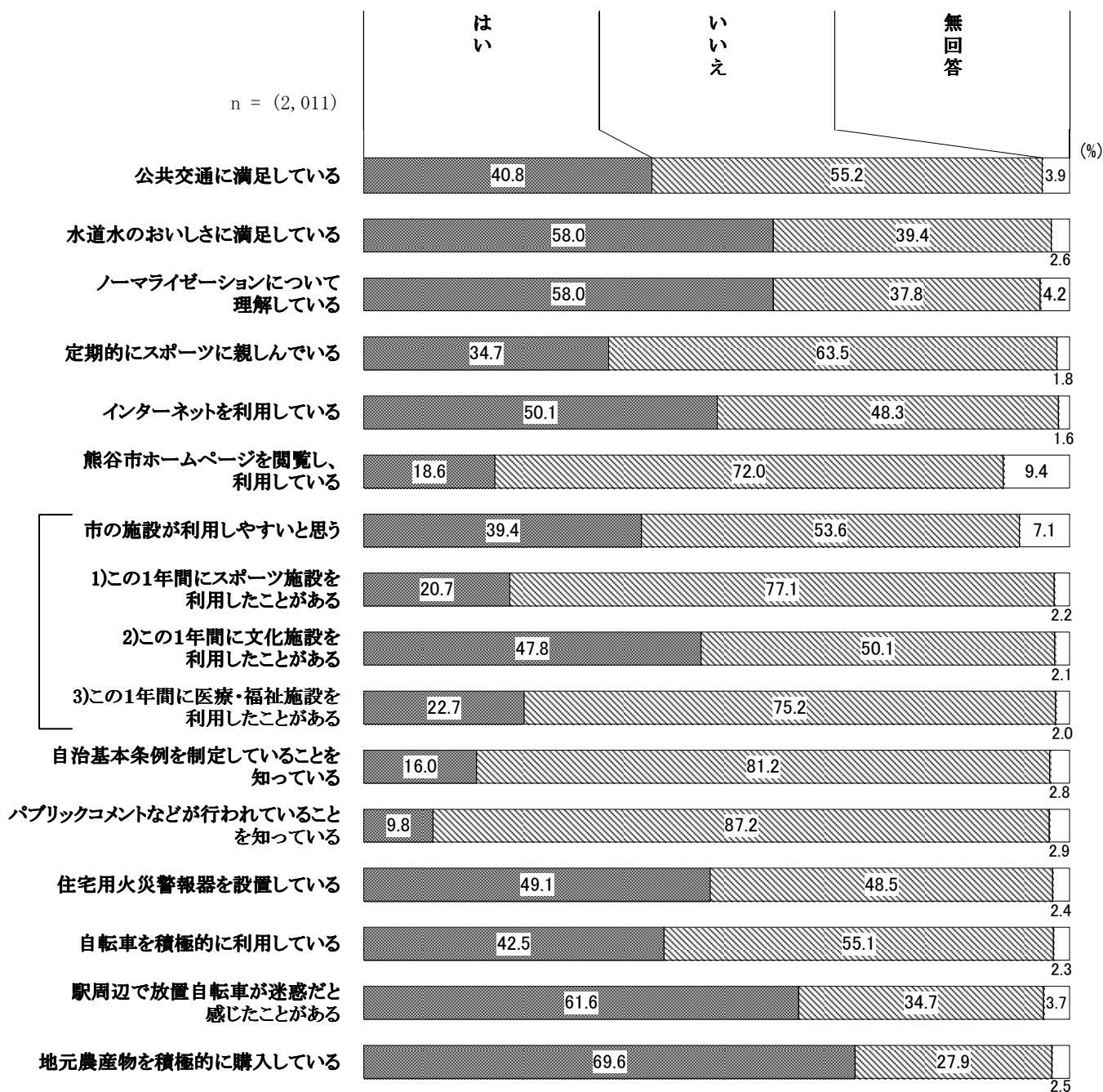
# 2

## 市民生活

### 生活の状況

n = (2,011)



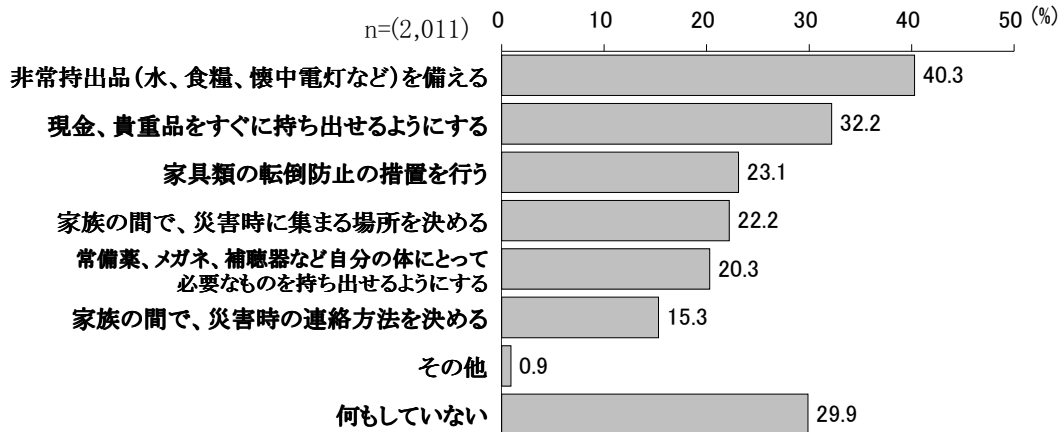


市民生活についての幅広い内容について、その認知や現状をたずねました。

「はい」の割合が多いものとしては、「省エネ活動や、ごみの分別・減量を実践している」(87.1%)、「『雪くま』を知っている」(82.5%)、「自分自身が健康である」(73.6%)、「地元農産物を積極的に購入している」(69.6%)、「避難すべき避難場所を知っている」(67.2%) などです。また、「熊谷市は星がよく見え、空がきれいだ」、「駅周辺で放置自転車が迷惑だと感じたことがある」などでも6割以上となっています。

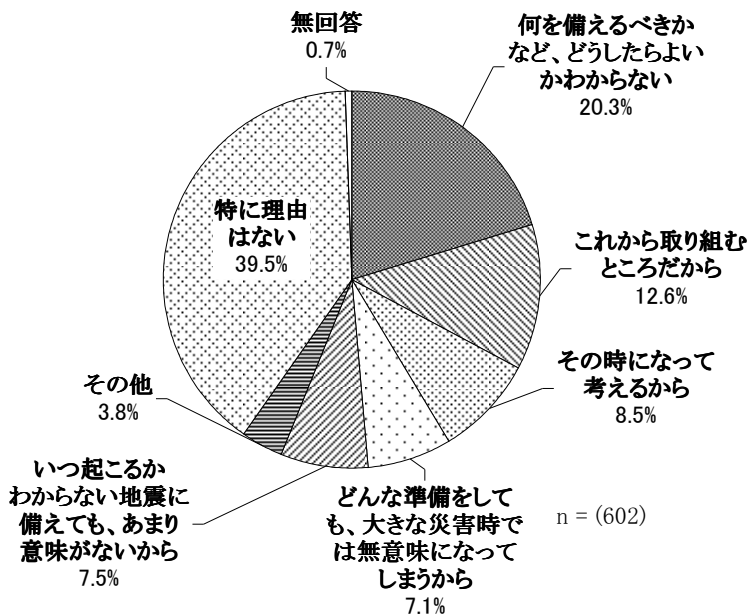
一方、「はい」の割合が少ないものとしては、「自然環境を大切にする活動に参加している」、「パブリックコメントなどが行われていることを知っている」、「自治基本条例を制定していることを知っている」、「ユニバーサルデザインによるまちづくりが進んでいる」、「熊谷市ホームページを閲覧し、利用している」で、2割未満となっています。

## 災害時に備えて取り組んでいること（複数回答）



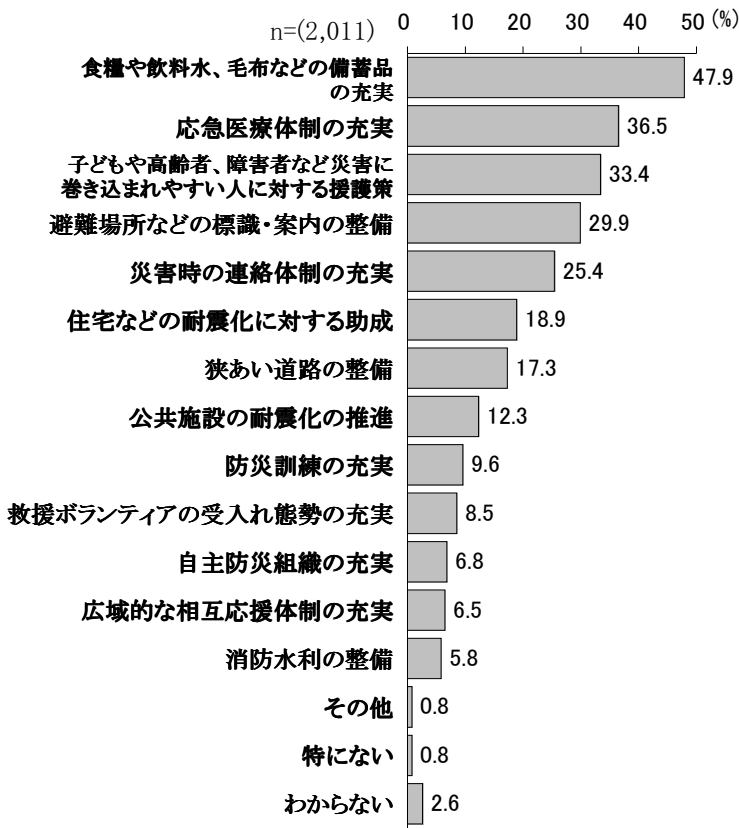
地震などの災害に備えて自身や家族で取り組んでいることは、「非常持出品（水、食糧、懐中電灯など）を備える」が40.3%で最も多く、以下、「現金、貴重品をすぐに持ち出せるようにする」が32.2%、「家具類の転倒防止の措置を行う」(23.1%)、「家族の間で、災害時に集まる場所を決める」(22.2%)、「常備薬、メガネ、補聴器など自分の体にとって必要なものを持ち出せるようにする」(20.3%)が2割台で続いています。

## 災害の準備を何もしていない理由



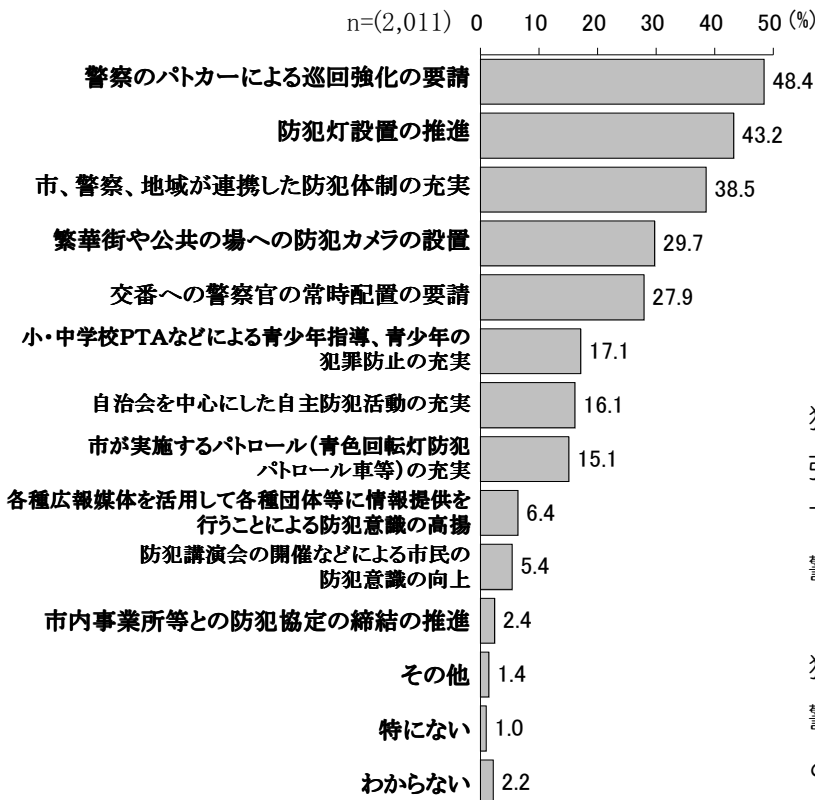
災害の準備を何もしていない理由は、「何を備えるべきかなど、どうしたらよいかわからない」が20.3%で最も多く、「これから取り組むところだから」が12.6%となっています。また、「特に理由はない」も39.5%と多くなっています。

### 防災対策要望（複数回答）



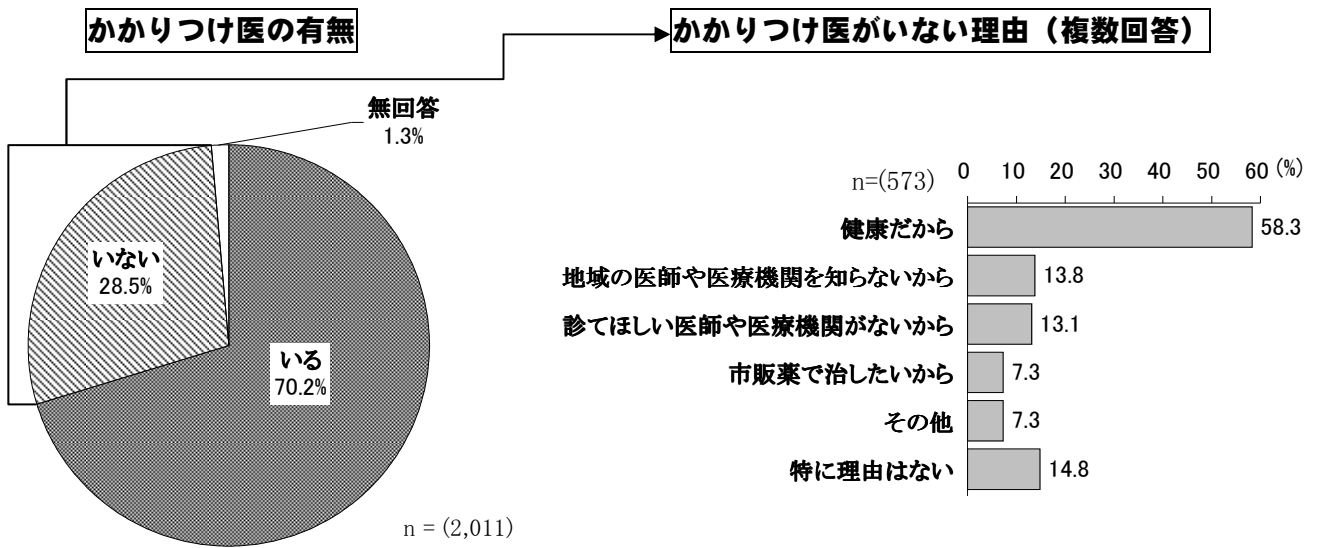
市が特に重点をおいて進めるべき防災対策は、「食糧や飲料水、毛布などの備蓄品の充実」が47.9%で最も多く、以下、「応急医療体制の充実」(36.5%)、「子どもや高齢者、障害者など災害に巻き込まれやすい人に対する援護策」(33.4%)が3割台、「避難場所などの標識・案内の整備」(29.9%)、「災害時の連絡体制の充実」(25.4%)が2割台で続いています。

### 防犯対策要望（複数回答）



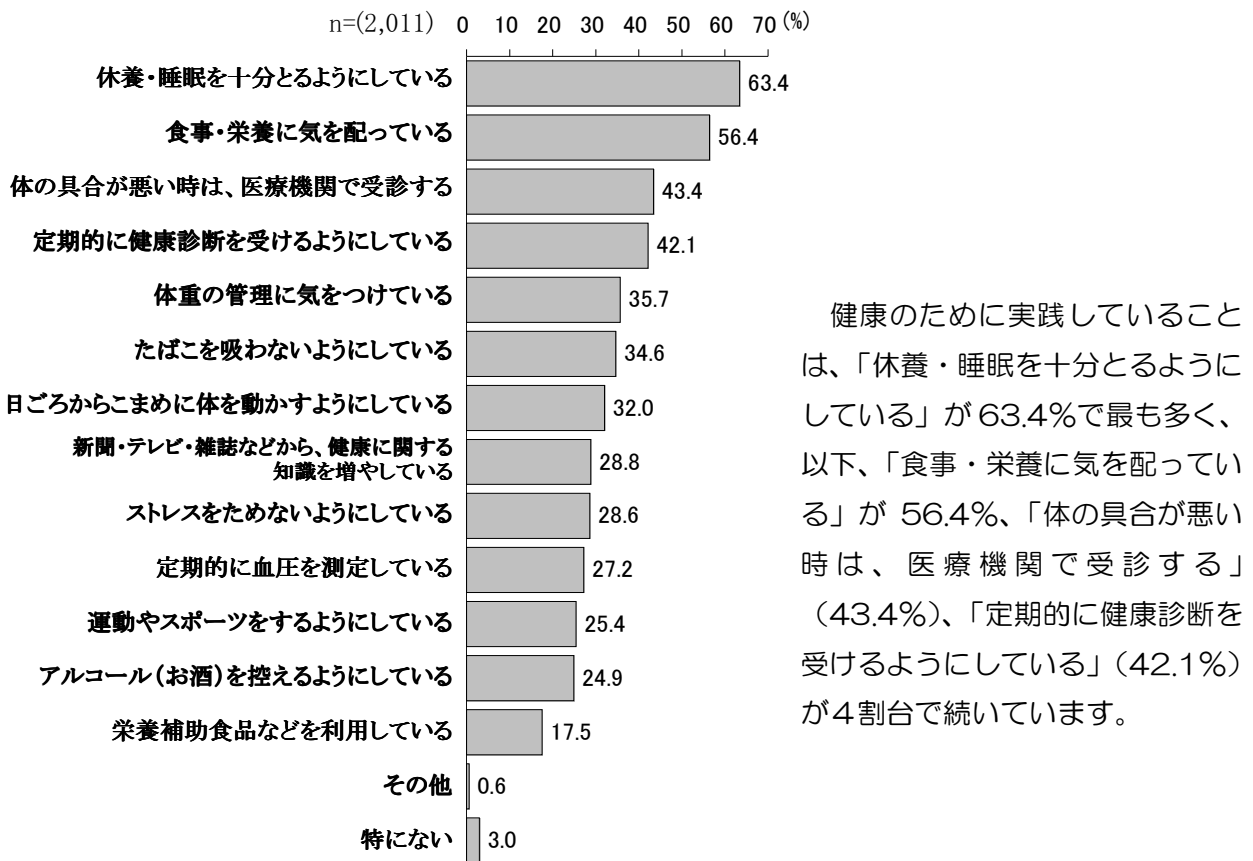
市が特に重点をおいて進めるべき防犯対策は、「警察のパトカーによる巡回強化の要請」が48.4%で最も多く、以下、「防犯灯設置の推進」(43.2%)、「市、警察、地域が連携した防犯体制の充実」(38.5%)、「繁華街や公共の場への防犯カメラの設置」(29.7%)、「交番への警察官の常時配置の要請」(27.9%)などが続いています。

# 4 健康・保健衛生



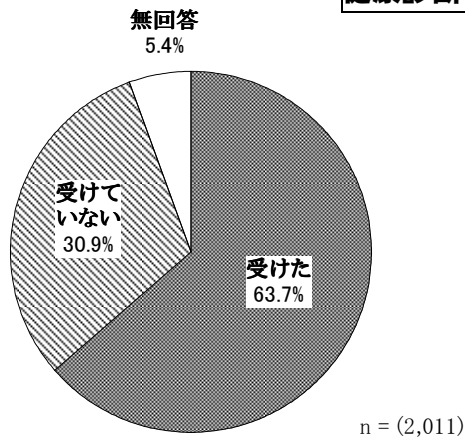
かかりつけ医が「いる」は70.2%、「いない」は28.5%となっています。  
 かかりつけ医がない理由は、「健康だから」が58.3%と特に多くなっています。また、「特に理由はない」も14.8%と比較的多くなっています。

## 健康のために実践していること (複数回答)



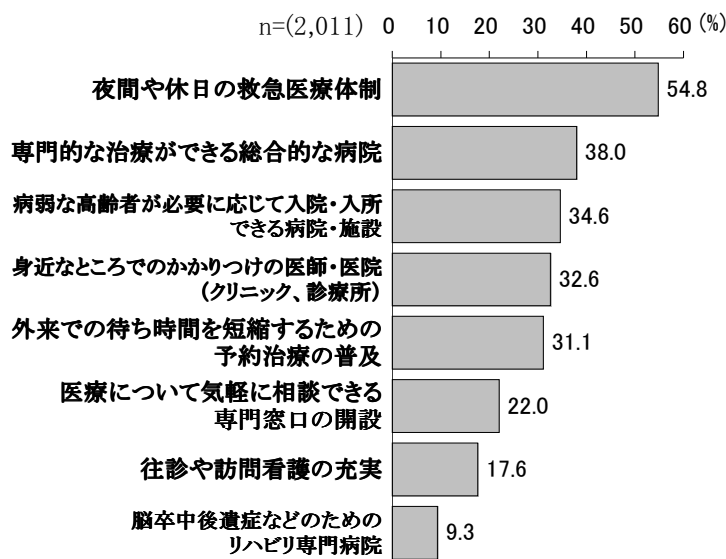


## 健康診断・人間ドックの受診状況



この1年間に健康診断・人間ドックを「受けた」人は63.7%、「受けていない」人は30.9%となっています。

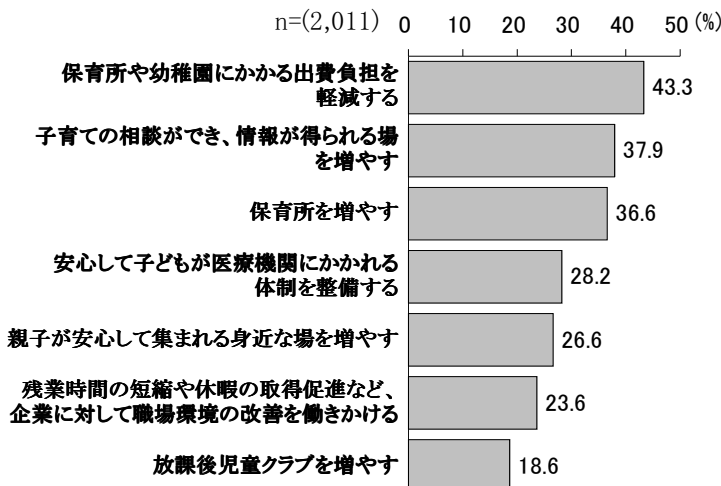
## 身近な地域に期待する医療施設や医療サービス（複数回答－上位8項目）



身近な地域に期待する医療施設や医療サービスは、「夜間や休日の救急医療体制」が54.8%で最も多く、以下、「専門的な治療ができる総合的な病院」（38.0%）、「病弱な高齢者が必要に応じて入院・入所できる病院・施設」（34.6%）、「身近なところでのかかりつけの医師・医院（クリニック、診療所）」（32.6%）、「外来での待ち時間を短縮するための予約治療の普及」（31.1%）が3割台で続いています。

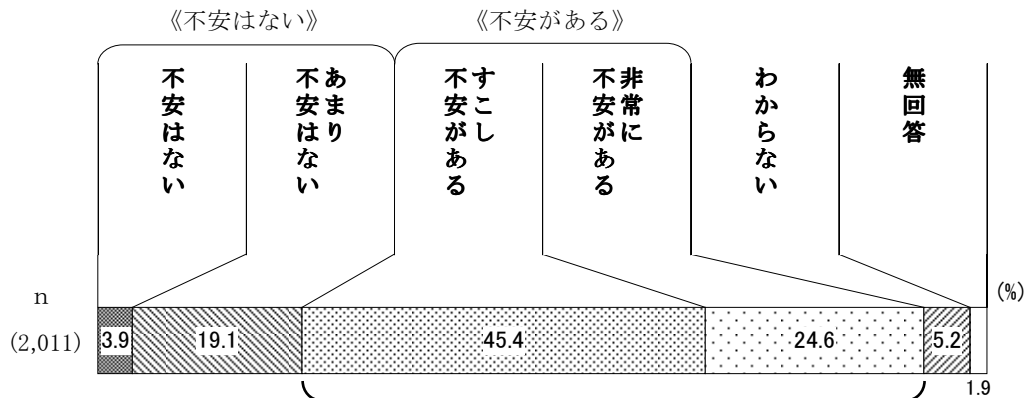
## 5 少子高齢社会

### 必要な子育て支援策（複数回答－上位7項目）

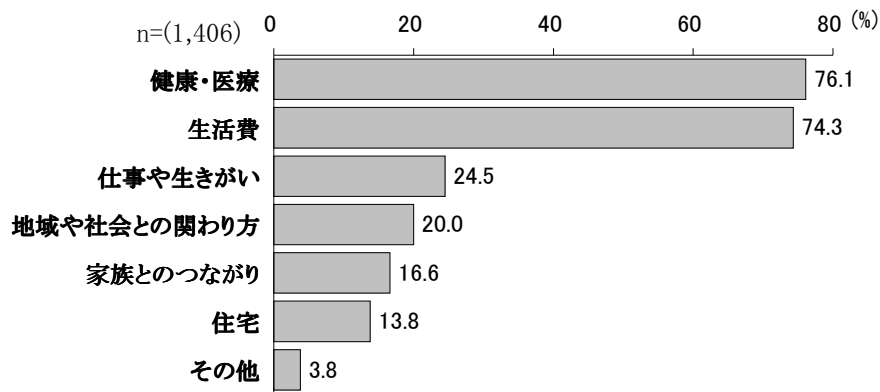


安心して子どもを産み、子育てしやすいまちにするために必要な施策は、「保育所や幼稚園にかかる出費負担を軽減する」が43.3%で最も多く、「子育ての相談ができ、情報が得られる場を増やす」（37.9%）、「保育所を増やす」（36.6%）が3割台で続いています。

## 老後への不安



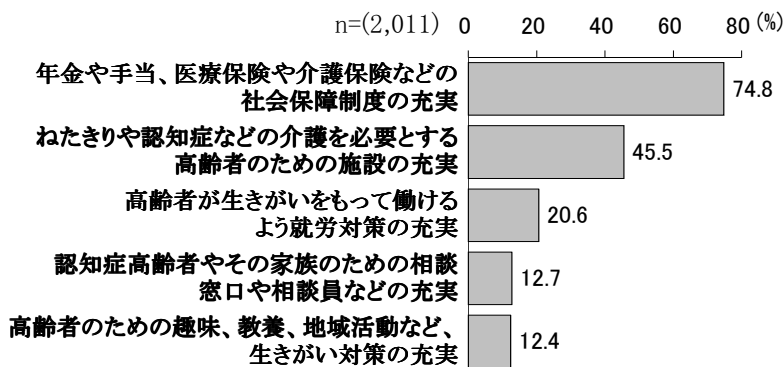
## 老後に対して不安を感じる点 (複数回答)



自分の老後に《不安がある》(「非常に不安がある」+「すこし不安がある」)は70.0%、《不安はない》(「不安はない」+「あまり不安はない」)は23.0%となっています。

老後の何に対して不安を感じるかでは、「健康・医療」(76.1%)、「生活費」(74.3%)の2項目が7割以上で特に多くなっています。

## 高齢化が進む中で大切だと思うこと (複数回答-上位5項目)

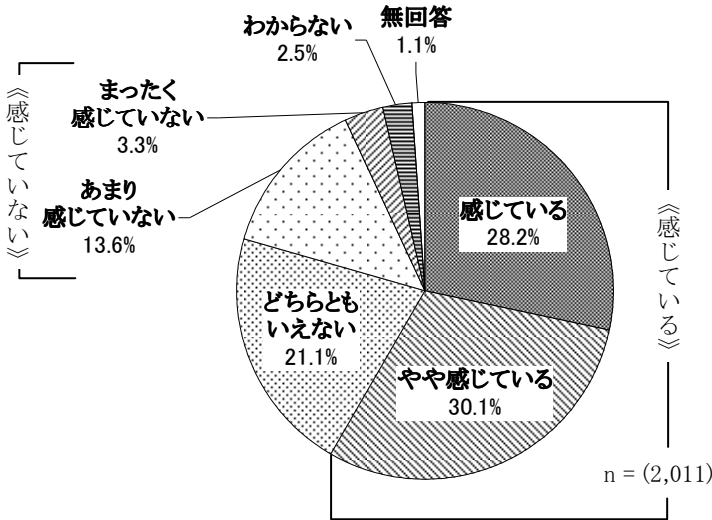


高齢化が進む中で、大切だと思うことは、「年金や手当、医療保険や介護保険などの社会保障制度の充実」が74.8%で最も多く、「ねたきりや認知症などの介護を必要とする高齢者のための施設の充実」が45.5%、「高齢者が生きがいをもって働けるよう就労対策の充実」(20.6%)などが続いています。

# 6

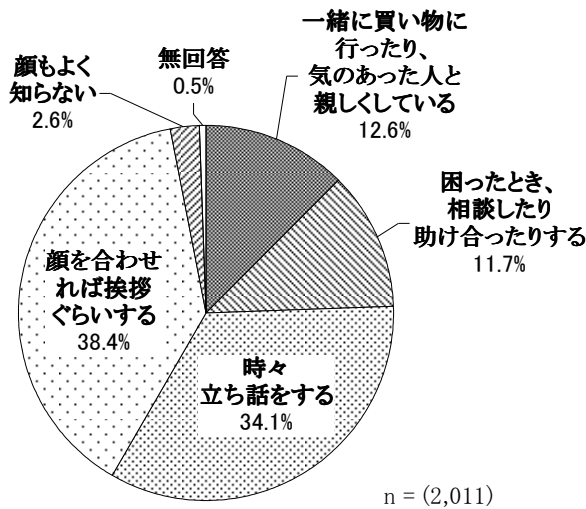
## 地域との関わり・市民活動

### 「熊谷」というまちへの愛着や誇り



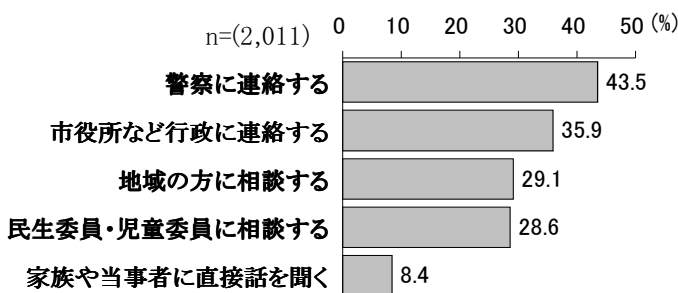
『熊谷』というまちに対して、愛着や誇りを《感じている》（「感じている」＋「やや感じている」）は58.3%となっています。一方、《感じていない》（「まったく感じていない」＋「あまり感じていない」）は16.9%となっています。

### 隣近所との付き合い方



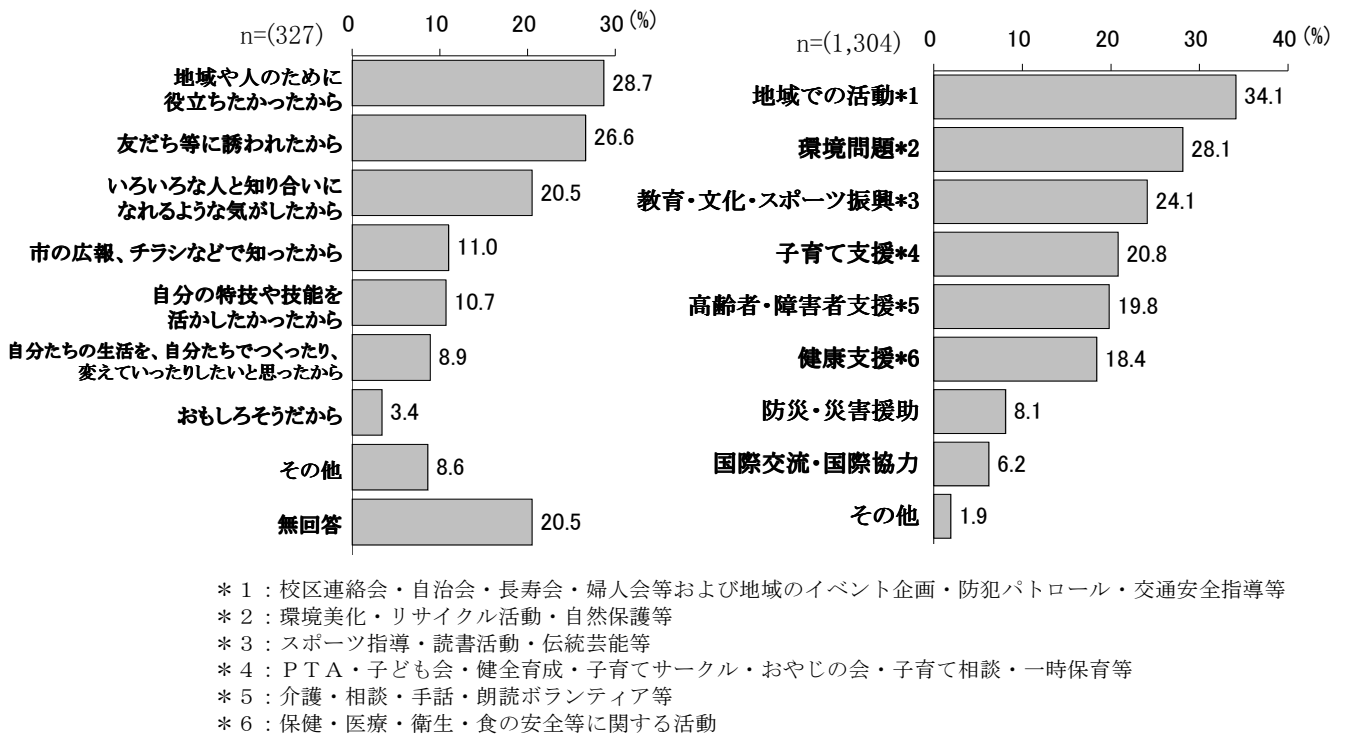
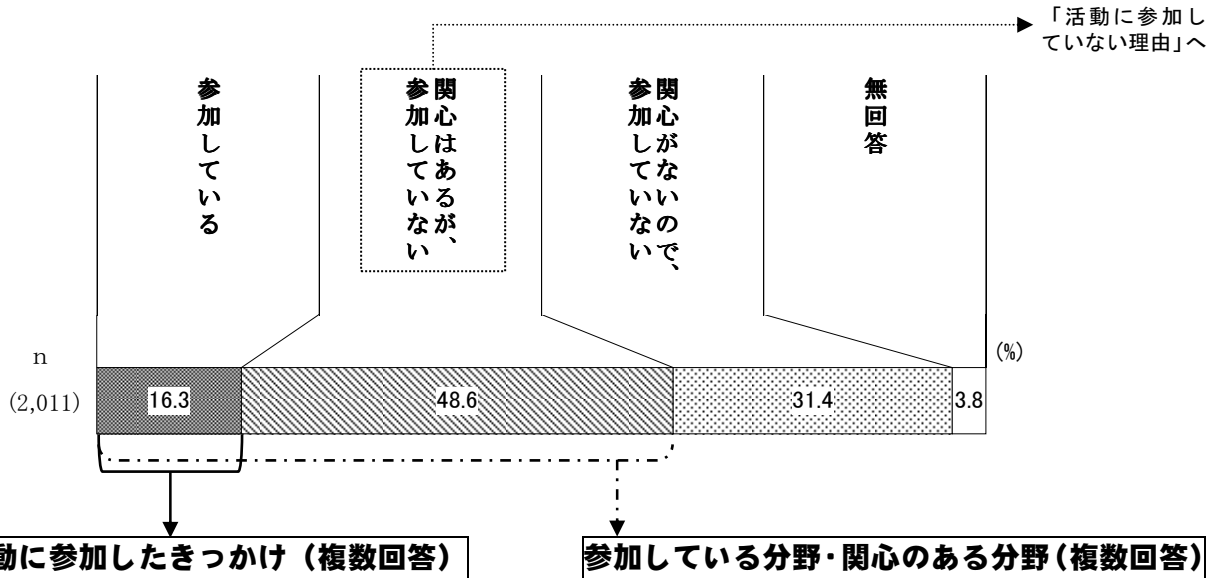
隣近所との普段の付き合い方は、「顔を合わせれば挨拶ぐらいする」が38.4%、「時々立ち話をする」が34.1%で3割台と多く、「一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親しくしている」（12.6%）や「困ったとき、相談したり助け合ったりする」（11.7%）は1割台となっています。

### 虐待やDVを発見したときの対応方法（複数回答－上位5項目）



隣近所で、児童虐待・高齢者虐待・DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者等からの暴力）などの異変に気づいた時の対応としては、「警察に連絡する」が43.5%で最も多く、「市役所など行政に連絡する」（35.9%）が3割台、「地域の方に相談する」（29.1%）、「民生委員・児童委員に相談する」（28.6%）が2割台で続いています。

## 市民活動への参加状況

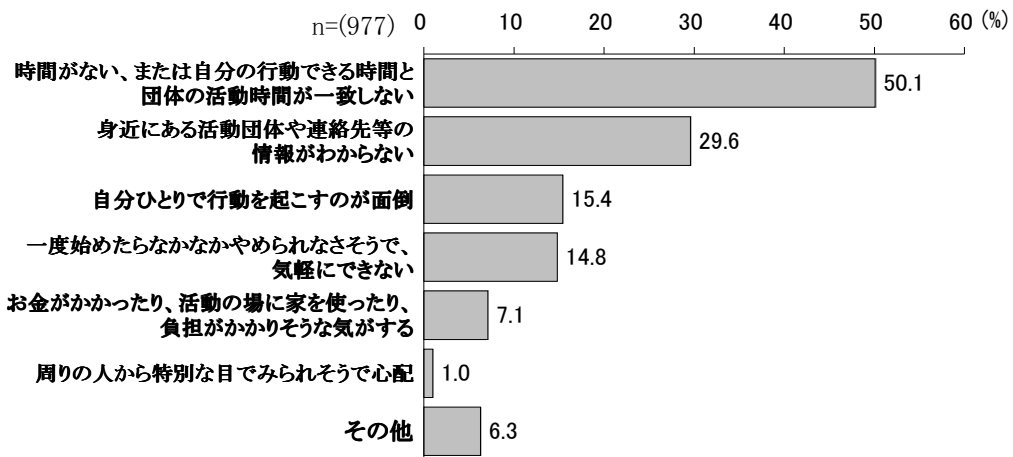


現在の市民活動への参加状況は、「参加している」が16.3%、「関心はあるが、参加していない」が48.6%、「関心がないので、参加していない」が31.4%となっています。

市民活動に参加した“きっかけ”は、「地域や人のために役立ちたかったから」(28.7%)と「友だち等に誘われたから」(26.6%)が多く、「いろいろな人と知り合いになれるような気がしたから」(20.5%)も2割台で続いています。

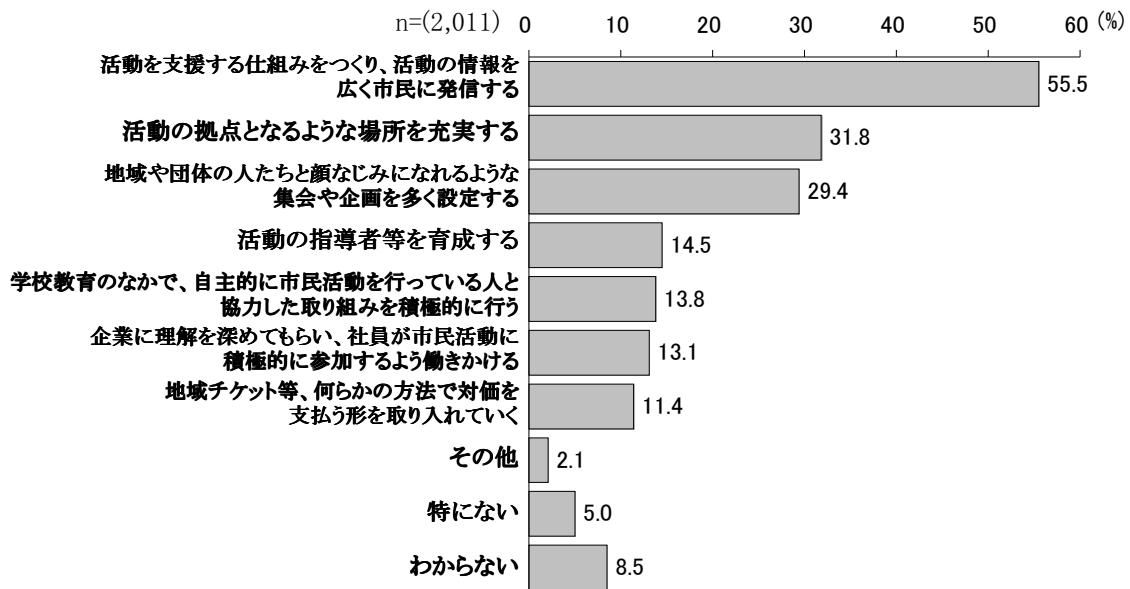
市民活動に“参加している人が参加している活動”、あるいは“関心はあるが、参加していない人の関心のある活動”の分野は、「地域での活動」が34.1%で最も多く、以下、「環境問題」(28.1%)、「教育・文化・スポーツ振興」(24.1%)、「子育て支援」(20.8%)が2割台で続いています。

### 活動に参加していない理由（複数回答）



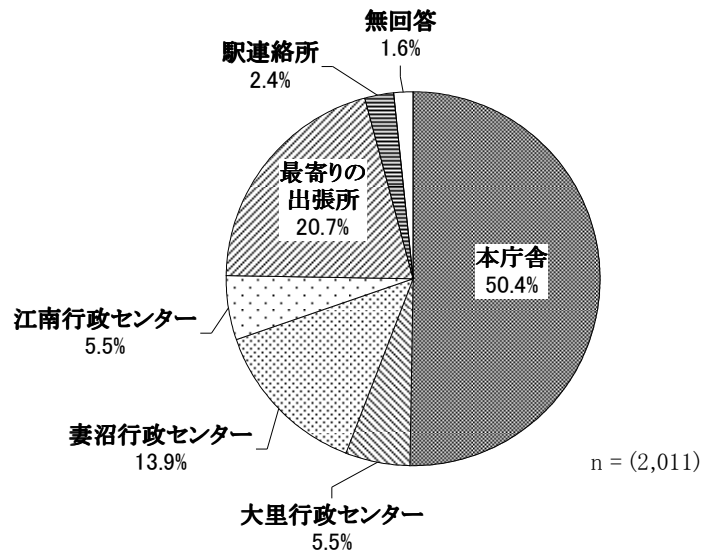
関心はあるが、参加していない理由は、「時間がない、または自分の行動できる時間と団体の活動時間が一致しない」が50.1%で特に多く、以下、「身近にある活動団体や連絡先等の情報がわからない」（29.6%）、「自分ひとりで行動を起こすのが面倒」（15.4%）、「一度始めたらなかなかやめられなさそうで、気軽にできない」（14.8%）などが続いています。

### 市民活動が盛んになるために必要なこと（複数回答）



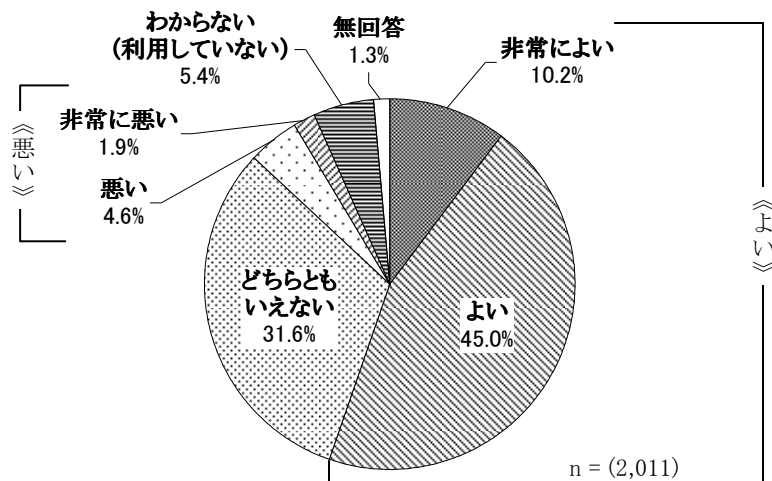
多くの市民が積極的に市民活動に参加できるようになり、活動が盛んになるために必要なことは、「活動を支援する仕組みをつくり、活動の情報を広く市民に発信する」が55.5%で特に多く、以下、「活動の拠点となるような場所を充実する」（31.8%）、「地域や団体の人たちと顔なじみになれるような集会や企画を多く設定する」（29.4%）が3割前後で続いています。

利用する窓口



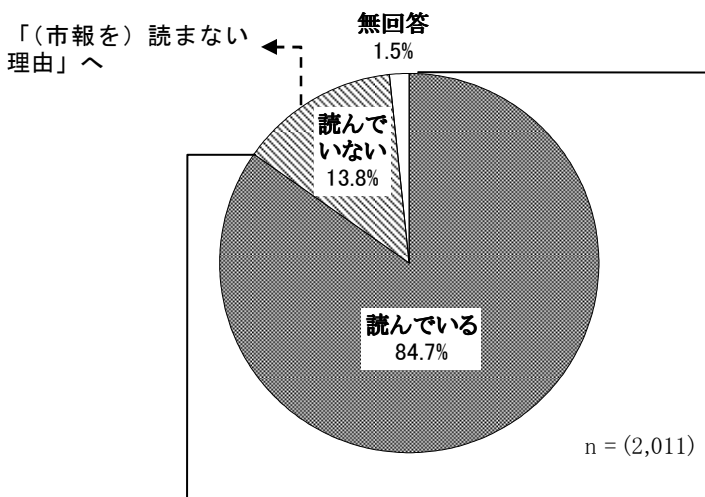
戸籍や住民票、印鑑証明書等の証明書の交付を受けるときに利用する主な窓口は、「本庁舎」が50.4%と約半数、それ以外では「最寄りの出張所」が20.7%、「妻沼行政センター」が13.9%となっています。

市役所や市の施設の職員の対応



市役所や市の施設の職員の、面会時、電話での対応の印象は、《よい》（「非常によい」＋「よい」）は55.2%となっています。一方、《悪い》（「非常に悪い」＋「悪い」）は1割未満（6.5%）となっています。

## 「市報くまがや」の閲読状況

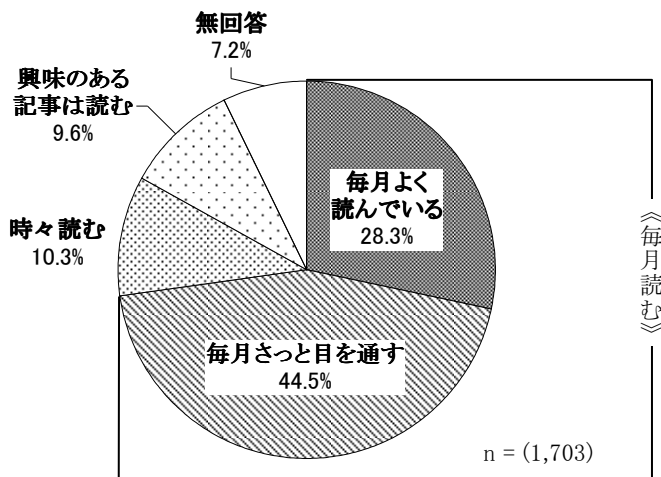


『市報くまがや』の閲読状況は、「読んでいる」は84.7%、「読んでいない」は13.8%となっています。

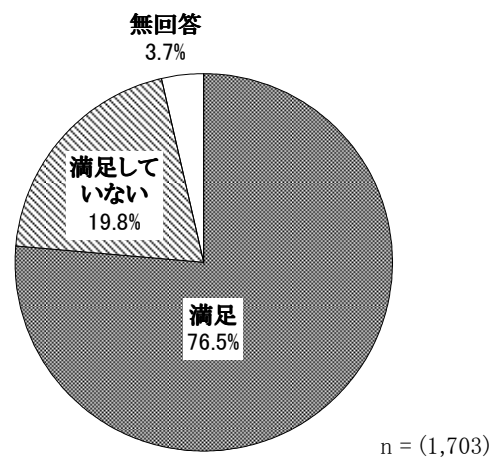
どの程度読んでいるかでは、「毎月よく読んでいる」が28.3%、「毎月さっと目を通す」が44.5%で、「毎月読む」は72.8%となっています。

市報の読みやすさ・わかりやすさの満足状況は、「満足」が76.5%、「満足していない」が19.8%となっています。

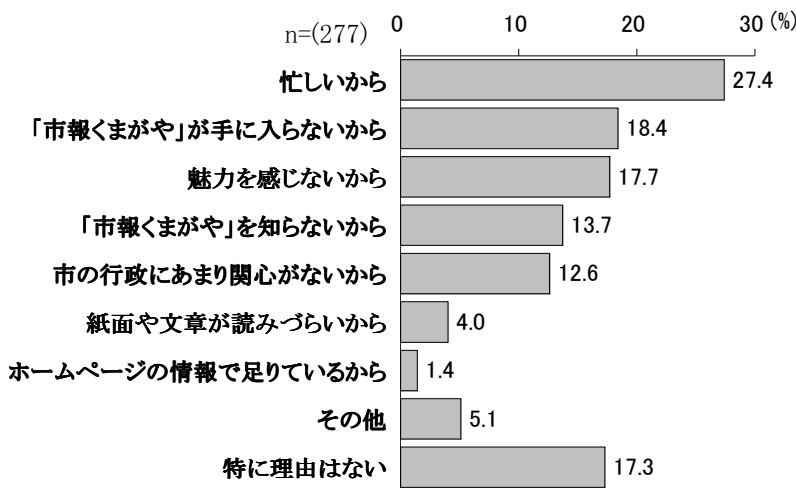
### どの程度読んでいるか



### 読みやすさ・わかりやすさ

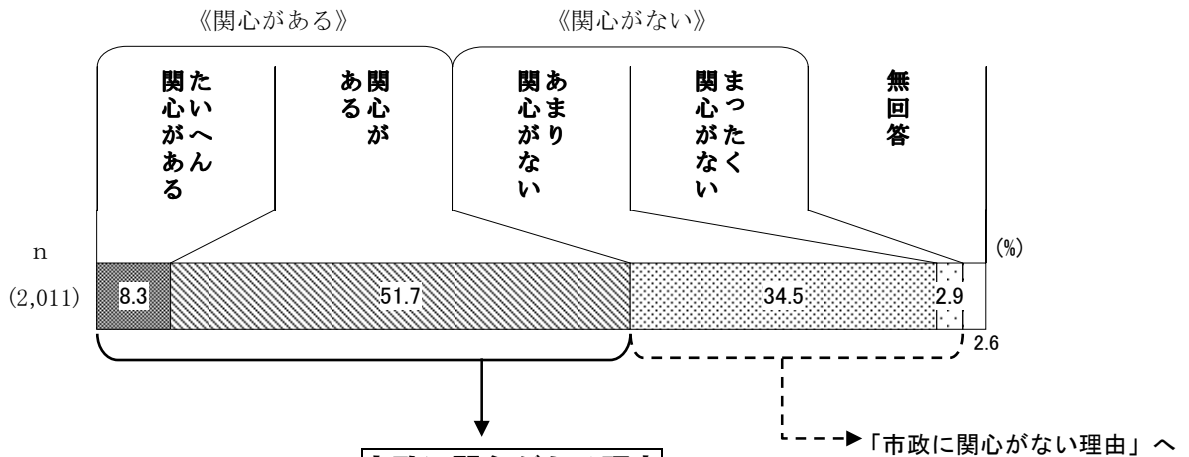


## 「市報くまがや」を読まない理由（複数回答）

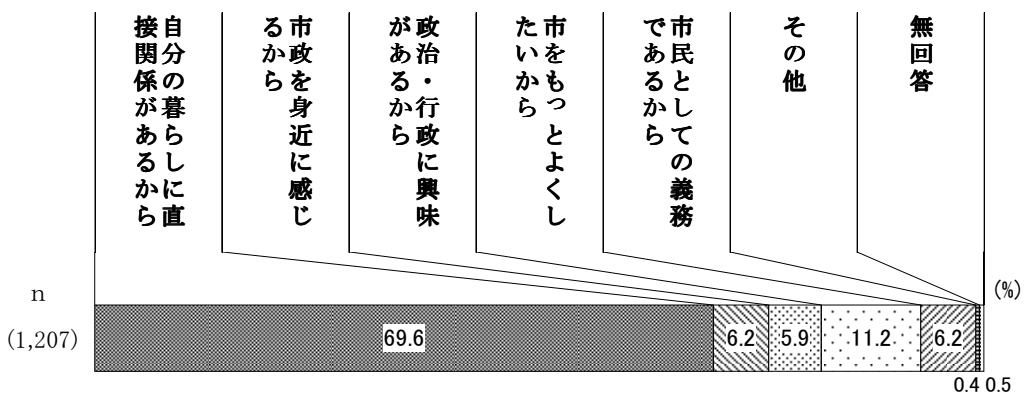


市報を読まない理由は、「忙しいから」が27.4%で最も多く、以下、「『市報くまがや』が手に入らないから」（18.4%）、「魅力を感じないから」（17.7%）、「『市報くまがや』を知らないから」（13.7%）、「市の行政にあまり関心がないから」（12.6%）が1割台で続いています。また、「特に理由はない」も17.3%と比較的多くなっています。

### 市政への関心



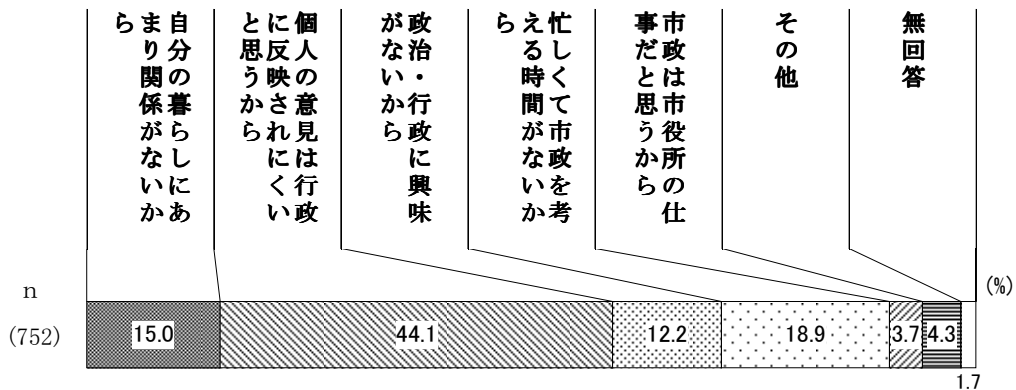
### 市政に関心がある理由



市政についての関心では、《関心がある》（「たいへん関心がある」＋「関心がある」）は60.0%となっています。一方、《関心がない》（「まったく関心がない」＋「あまり関心がない」）は37.4%となっています。

市政に《関心がある》人の理由は、「自分の暮らしに直接関係があるから」が69.6%で最も多く、「市をもっとよくしたいから」が11.2%となっています。

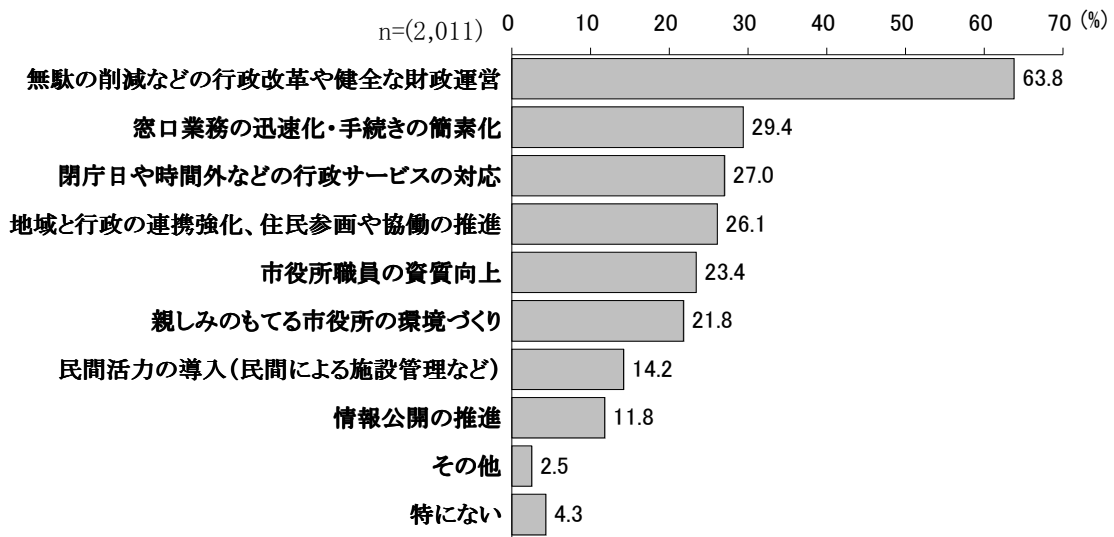
### 市政に関心がない理由



市政に《関心がない》人の理由は、「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」が44.1%で最も多く、「忙しくて市政を考える時間がないから」（18.9%）、「自分の暮らしにあまり関係がないから」（15.0%）、「政治・行政に興味がないから」（12.2%）が1割台となっています。

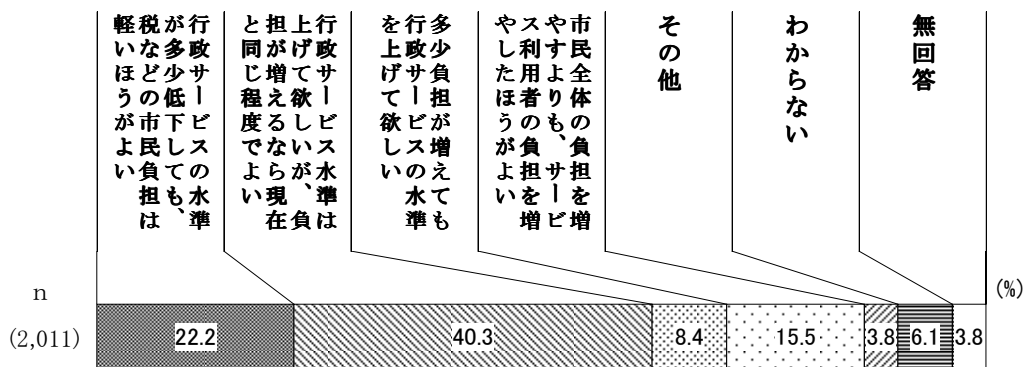


### 熊谷市の行政運営に望むこと（複数回答）



市の行政運営に対して特に望むことは、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が63.8%で特に多く、以下、「窓口業務の迅速化・手続きの簡素化」(29.4%)、「閉庁日や時間外などの行政サービスの対応」(27.0%)、「地域と行政の連携強化、住民参画や協働の推進」(26.1%)、「市役所職員の資質向上」(23.4%)、「親しみもてる市役所の環境づくり」(21.8%)などが2割台で続いています。

### 今後の行政サービスのあり方について



今後の行政サービスのあり方についての考えは、「行政サービスの水準は上げて欲しいが、負担が増えるなら現在と同じ程度でよい」《現状維持》が40.3%で最も多く、「行政サービスの水準が多少低下しても、税などの市民負担は軽いほうがよい」《負担軽減》が22.2%、「市民全体の負担を増やすよりも、サービス利用者の負担を増やしたほうがよい」《応益負担》が15.5%となっています。

# 8 施策の重要度、満足度

市の施策となる48項目の比較をより単純にするために、下記の計算式のように、5段階の評価に点数を与え、各項目の平均評価点を算出しました。

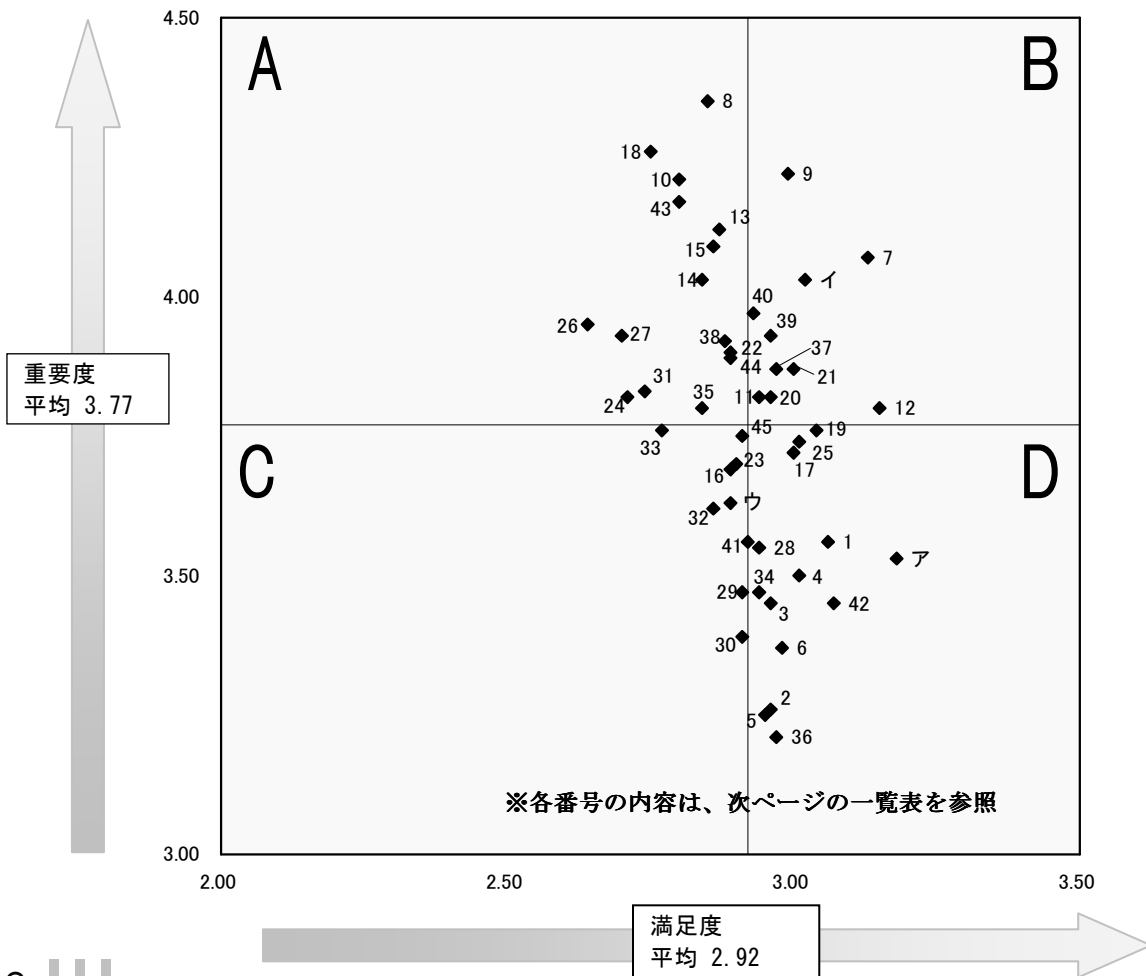
$$\text{平均評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重要」・「満足」 の回答数} \times 5 \text{点} \\ \text{「やや重要」・「ほぼ満足」 の回答数} \times 4 \text{点} \\ \text{「普通」・「普通」 の回答数} \times 3 \text{点} \\ \text{「あまり重要でない」・「やや不満」 の回答数} \times 2 \text{点} \\ \text{「重要でない」・「不満」 の回答数} \times 1 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数（無回答を除く）}} \quad \left. \vphantom{\frac{\begin{array}{l} \text{「重要」・「満足」 の回答数} \times 5 \text{点} \\ \text{「やや重要」・「ほぼ満足」 の回答数} \times 4 \text{点} \\ \text{「普通」・「普通」 の回答数} \times 3 \text{点} \\ \text{「あまり重要でない」・「やや不満」 の回答数} \times 2 \text{点} \\ \text{「重要でない」・「不満」 の回答数} \times 1 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数（無回答を除く）}} \right\} \text{合計}$$

この算出方法では、平均評価点は5.00点から1.00点の間に分布し、3.00点が中間値です。5.00点に近いほど評価は高く、逆に1.00点に近いほど評価は低いこととなります。

重要度と満足度の平均評価点の関係をみるために、重要度を縦軸に、満足度を横軸にとって各項目の平均評価点をプロットしたのが下の図です。また、この図はそれぞれの平均値（重要度平均値 3.77、満足度平均値 2.92）を境として、4つの領域に分類できます。

重要度 ↑	A 重要度：高 満足度：低	B 重要度：高 満足度：高
	C 重要度：低 満足度：低	D 重要度：低 満足度：高
	満足度 →	

重要度、現状評価（満足度）のプロット図

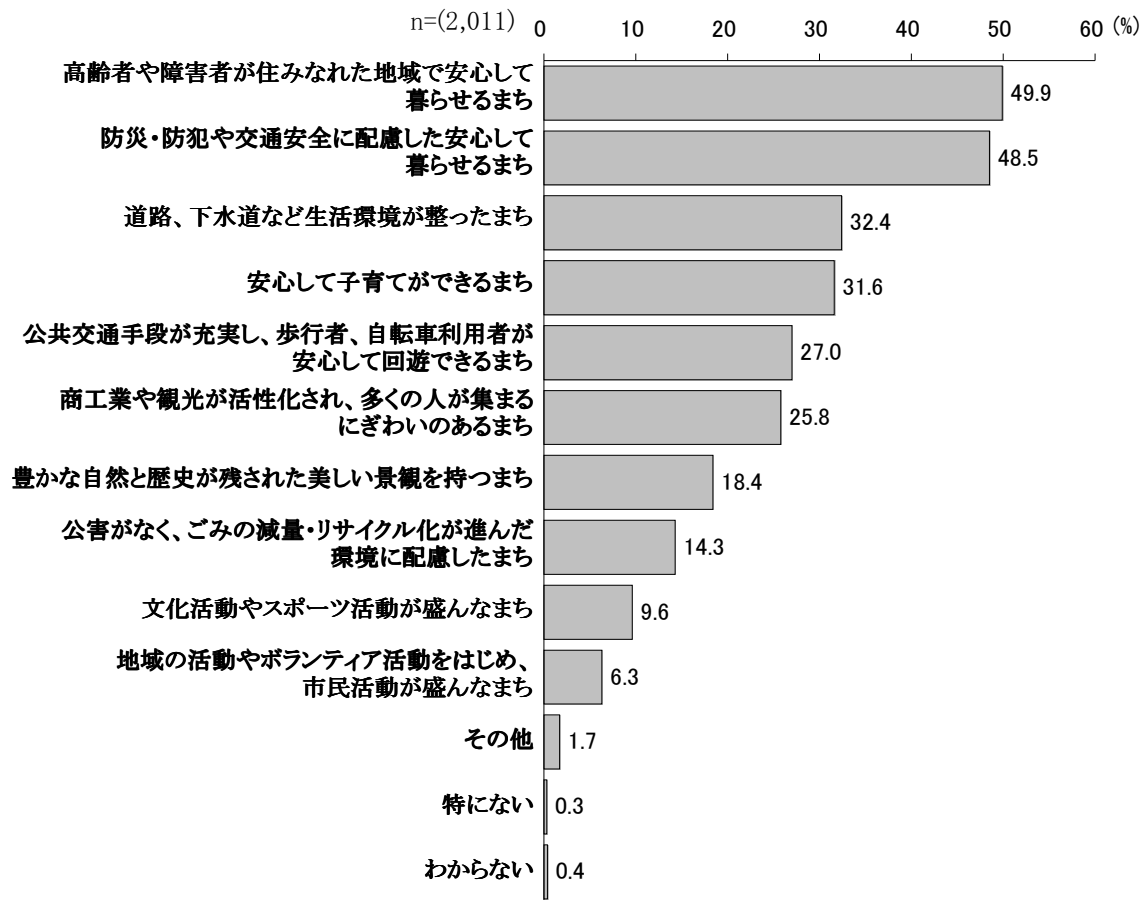


施策一覧		重要度	満足度	施策一覧		重要度	満足度
1	全国に発信できる特色をつくる	3.56	3.06	25	地産地消を進める	3.74	3.01
2	歴史再発見のまちを推進する	3.26	2.96	26	商業を活性化する	3.95	2.64
3	市民活動を育成・支援する	3.45	2.96	27	企業活力を高める	3.93	2.70
4	人権尊重のまちをつくる	3.50	3.01	28	地域の特色を生かしたバランスの良いまちをつくる	3.55	2.94
5	国際交流・国際理解を推進する	3.25	2.95	29	熊谷らしい景観をつくる	3.47	2.91
6	男女共同参画社会を確立する	3.37	2.98	30	人にやさしいユニバーサルデザインのまちをつくる	3.39	2.91
7	平和なまちをつくる	4.07	3.13	31	便利に使える生活道路を整備する	3.83	2.74
8	犯罪の起こらない環境を整備する	4.35	2.85	32	機能的な幹線道路を整備する	3.62	2.86
9	災害に強いまちをつくる	4.22	2.99	33	公共交通を充実する	3.76	2.77
10	交通事故の減少・防止を図る	4.21	2.80	34	人でにぎわう緑あふれる公園をつくる	3.47	2.94
11	消費者被害を防止する	3.82	2.94	35	上下水道を整備する	3.80	2.84
12	消防力を強化する	3.80	3.15	36	安心して暮らせる市営住宅を整備する	3.21	2.97
13	高齢者が元気に暮らせる環境をつくる	4.12	2.87	37	学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる	3.87	2.97
14	障害者が暮らしやすい環境をつくる	4.03	2.84	38	確かな学力（知・徳・体）を身につけさせる	3.92	2.88
15	楽しく子育てできる環境をつくる	4.09	2.86	39	安全で快適な学校づくりを進める	3.93	2.96
16	地域で支え合う心をはぐくむ	3.69	2.89	40	たくましく心豊かな子どもを育てる	3.97	2.93
17	市民の健康づくりを支援する	3.72	3.00	41	魅力ある生涯学習事業、施設を拡充・整備する	3.56	2.92
18	医療体制を充実する	4.26	2.75	42	スポーツ・文化に熱中できる場をつくる	3.45	3.07
19	豊かな自然を保全する	3.76	3.04	43	健全な財政運営を行う	4.17	2.80
20	生活環境を保全する	3.82	2.96	44	開かれた市政を推進する	3.89	2.89
21	ごみの発生を抑制し、再利用を促進する	3.87	3.00	45	既存の施設を有効に活用する	3.75	2.91
22	地球温暖化対策を推進する	3.90	2.89	ア	「あつさ はればれ 熊谷流」(あっぱれ 熊谷流)プロジェクト	3.53	3.18
23	農業環境を整備する	3.70	2.90	イ	“子育てするなら熊谷市” 子育て応援プロジェクト	4.03	3.02
24	農業の担い手を育成する	3.82	2.71	ウ	人口増プロジェクト	3.63	2.89

重要度が高く満足度が低い領域には、「8 犯罪の起こらない環境を整備する」、「18 医療体制を充実する」、「10 交通事故の減少・防止を図る」、「43 健全な財政運営を行う」、「26 商業を活性化する」、「27 企業活力を高める」などが位置しています。

一方、重要度・満足度ともに高い領域には、「7 平和なまちをつくる」、「9 災害に強いまちをつくる」、「12 消防力を強化する」などが位置しており、災害対策には一定の評価がなされていることがわかります。また、リーディング・プロジェクトからは「イ “子育てするなら熊谷市” 子育て応援プロジェクト」が入っており、取り組みへの期待と評価が高くなっています。なお、「ア 『あつさ はればれ 熊谷流』（あっぱれ！熊谷流）プロジェクト」も重要度は低いものの満足度は高くなっており、十分な評価がなされているといえます。

## 熊谷市の将来像（複数回答）



将来、熊谷市がどんな魅力を持ったまちになってほしいと思うかでは、「高齢者や障害者が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」（49.9%）と「防災・防犯や交通安全に配慮した安心して暮らせるまち」（48.5%）の2項目が4割台で多くなっています。以下、「道路、下水道など生活環境が整ったまち」（32.4%）、「安心して子育てができるまち」（31.6%）が3割台、「公共交通手段が充実し、歩行者、自転車利用者が安心して回遊できるまち」（27.0%）、「商工業や観光が活性化され、多くの人が集まるにぎわいのあるまち」（25.8%）が2割台で続いています。

### 平成22年度 熊谷市民意識調査報告書 概要版

発行日 : 平成23年2月  
 発行 : 熊谷市  
 編集 : 熊谷市 総合政策部 広報広聴課  
 熊谷市宮町二丁目47番地1  
 電話 : 048-524-1111